



寿都町【北海道】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成30年3月 ■人口：3,036人 ■面積：95km²
■担当課：寿都町教育委員会文化推進係（平成30年3月現在）



寿都町は、道内でも有数の鯉漁場として栄え、昭和30年に近隣の4ヶ町村が合併し成立した。町の歴史を語る建造物や風習等を「寿都のお宝」と名付け、町全体、各地域が持つ繋がりを特色ごとにまとめ、保存活用の方針を定めた。保存活用方法を検討する「すつつ湾お宝会議」と、調査活動等を行う「すつつ湾お宝勉強会」を設置し、構想や「寿都のお宝」の普及啓発を推進する。

5 歴史文化を表す つのキーワード

風、海、漁業、鉄道、例大祭

課題

- ・担い手・伝承者の創出と育成
- ・「寿都のお宝」の重要性の理解や浸透
- ・保存活用の取組みの推進

保存活用方針

- ・担い手育成と仕組みづくり
- ・他事業と連携した学習機会の拡充、魅力の発信方法の検討
- ・魅力を伝え、活かす方法の検討等

保存活用のための取り組み

「すつつ湾お宝会議」及び「勉強会」の設置、運営

「寿都のお宝」のより良い保存活用方法を検討・推進する「すつつ湾お宝会議」と、「寿都のお宝」の更なる掘り起こしや、魅力、歴史等を学習する町民参加型活動組織「すつつ湾お宝勉強会」を設置し、構想の課題解決策を検討する。



学び、守り、活かし、伝えるための人材育成

「すつつ湾お宝勉強会」での学習機会の提供の他、学校教育、社会教育等と連携し「寿都のお宝」を後世に遺し、伝えるための学習機会の設定や、担い手・語り部を育成するための仕組み作りを検討・推進する。



「寿都のお宝」の魅力発信

町の歴史を物語るために欠かせないものとして、地域の特徴やテーマから拾い上げた「寿都のお宝」の魅力を教育の場だけでなく、町内外に向けて分かりやすくPRしていくための方法の検討や実践的な活動を行う他、時代に適したツールの作成を検討する。



「寿都のお宝」の魅力を活用したまちづくり

学校教育、社会教育など他事業と連携して「寿都のお宝」とその背景にある歴史、現在も受け継がれてきた風習等の魅力を、より良い形でまちづくりに活かせるよう検討・推進する。



◆ 関連文化財群



地域の特徴や自然環境、同じような生活文化が営まれた歴史などの関連性を基に「寿都のお宝」をまとめた関連文化財群を「寿都のお宝箱」と名付けた。現在、町の歴史を物語る「寿都のお宝箱」の例をいくつか挙げている。今後、必要に応じ新たな「寿都のお宝箱」の設定を検討することも可能としている。

ストーリー

- ① だし風が生んだ文化
- ② 寿都湾を囲む地形が生んだ文化
- ③ 鯨場としての繁栄の歴史
- ④ 寿都鉄道が運び育んだ文化
- ⑤ 多様な地域の祭りの伝統文化
- ⑥ 海の幸・山の幸から生まれた食文化
- ⑦ 交通の要衝として物と人が行き交った文化
- ⑧ 行政と商業、人々の営みが生んだ文化
- ⑨ 弁慶岬の景勝と伝説が生きる文化

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 埋もれていた歴史・文化の再発見
 これまでの調査を「すつつ湾お宝勉強会」で継承し、継続した調査・周知活動を続けていく。歴史を目で捉えられるものはもちろん、町民の間で日常的、当たり前とされてきた料理などの文化に、外からの視点を取り入れ新たな価値を見出し、教育やまちづくり活動に活かすことが可能になる。



② まちづくり活動の活性化
 「寿都のお宝」を周知することで、テーマに合わせて「寿都のお宝」を活かした学習機会の提供や観光客へのPR、イベントなどへの活用が可能になる。「寿都のお宝」の魅力を再認識し、触れる機会が増えることで、「寿都のお宝」を取り入れた環境づくり、担い手育成などの保存活動、事業の拡充などが見込まれる。



③ 担い手・伝承者の育成
 現在、「寿都のお宝」の担い手や伝承者の高齢化が進んでいるため、継承方法の検討や活動支援を行う。体験事業の中に掃除や保管、歴史ツアーとパトロールを兼ねるなど、まちづくり活動と体験を通じた保存活動を組み合わせることで、後世へと伝える大切さをより良い方法で継承していくことが可能になる。

